

## 主要業績一覧

2024年6月20日更新

### 著書

- 1 (共著)「イスラームの啓示観—ファフルッディーン・ラーズィーの啓示(ワフイ)観—」(市川裕・鎌田繁編)『聖典と人間』(大明堂、1998):187-205。
- 2 『聖典「クルアーン」の思想 イスラームの世界観』講談社現代新書、2004年。
- 3 『図説コーランの世界 写本の歴史と美のすべて』河出書房新社(ふくろうの本)、2005年。
- 4 『イスラームにおける運命と啓示 クルアーン解釈書に見られる「天の書」概念をめぐる』晃洋書房、2009年。
- 5 (共著)「人は運命に逆らえるのか—運命と自由—」、直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学4 自由とは』(岩波書店、2012):61-100。
- 6 (共著)「『コーラン』と『コーランを読む』—コトバの深奥へ」、坂本勉・松原秀一編『井筒俊彦とイスラーム 回想と書評』(慶応義塾大学出版会、2012):321-331。
- 7 『イスラーム化する世界 グローバリゼーション時代の宗教』平凡社新書、2013年。
- 8 『チャムパ王国とイスラーム カンボジアにおける離散民のアイデンティ』平凡社、2017年。
- 9 『クルアーン 神の言葉を誰が聞くのか』慶應義塾大学出版会、2018年。
- 10 『リベラルなイスラーム 自分らしく生きる宗教講義』慶応義塾大学出版会、2021年。
- 11 『増補 聖典クルアーンの思想 イスラームの世界観』ちくま学芸文庫、2024年。

### 翻訳

- 1 ミカエル・クック著『コーラン』岩波書店(<1冊でわかる>シリーズ)、2005年。

### 論文

- 1 「イスティアーズの祈禱句に見られるクルアーンを受容に関して」『オリエント』40-1(1997):90-105。
- 2 「クルアーンの啓示(インザール)理論の形成」『イスラム世界』59(2002):1-22。
- 3 「『書かれたもの(キターブ)』と運命論—クルアーン、『天の書板』、『記録の書』—」『オリエント』45-1(2002):142-158。
- 4 「イスラームの動物観 クルアーン(コーラン)の句を中心に」『動物観研究』9(2004):3-8。
- 5 「イスラーム教徒の聖典観 現代の若者たちにとっての『クルアーン(コーラン)』」『国際学研究』31(2007):33-54。
- 6 「アミーナ・ワドゥードのクルアーン(コーラン)解釈方法論—ファズルル・ラフマーン理論の継承と発展—」『国際学研究』35(2009):35-52。
- 7 “Contemporary Muslim Intellectuals who Publish *Tafsīr* Works in English: The Authority of Interpreters of the Qur’ān,” *Orient* 48(2013):57-77.

- 8 “Hidden Islamic Literature in a Cambodian Village: The Cham in the Khmer Rouge Period,” *International & Regional Studies* 45(2014): 1-20.
- 9 「平和と戦争をめぐる二人のイスラーム教徒 オサマ・ビン・ラディンとフェトフッラー・ギユレン」 *PRIME* 37(2014):11-20
- 10 “Interpretation of the Quran in Contemporary India: Wahiduddin Khan’s Reading of Peace and Spirituality in the Scripture,” *International Journal of Islamic Thought* 16(2019): 108-121.  
([http://www.ukm.my/ijit/wp-content/uploads/2019/12/IJIT-Vol-16-Dec-2019\\_10\\_108-121.pdf](http://www.ukm.my/ijit/wp-content/uploads/2019/12/IJIT-Vol-16-Dec-2019_10_108-121.pdf))
- 11 「世界のクルアーン解釈と日本 多様な読み方に向かって」、日本のイスラームとクルアーン編集委員会編『日本のイスラームとクルアーン 現状と展望』（晃洋書房、2020年）、57-90頁。
- 12 「インド・シーア派少数派の近代的クルアーン（コーラン）解釈 アスガル・エンジニアによる女性の地位改革」『研究東洋』10(2020)、81-100頁。
- 13 「現代クルアーン解釈者と越境としての亡命—ファズルル・ラフマーンとナスル・アブー・ザイドー」『越境する宗教史（下）』（リトン、2020年）、299-328頁。
- 14 “Interpretation of *Hawwā’* (Eve) in Contemporary Egypt: *Tafsīr* (Interpretation of the Qur’ān) of Muḥammad Mitwallī al-Sha’rāwī and Muḥammad Sayyid Ṭanṭāwī,” *Orient* 56 (2020)
- 15 “The Religious Others in the Qur’ān and Conversion: Farid Esack on Pluralism and Reza Shah-Kazemi on Interfaith Dialogue,” *Australian Journal of Islamic Studies* 6, no. 3 (2021): 36-55. ([View of The Religious Others in the Qur’ān and Conversion \(ajis.com.au\)](http://ajis.com.au))
- 16 「カンボジアのチャム人ムスリム—呪術的知の獲得とジェンダー—」、森本一夫他編『イスラームの内と外から 鎌田繁先生古稀記念論集』（ナカニシヤ出版、2023年）、540-561頁。
- 17 「カンボジア —カンボジアのマイノリティ・ムスリム チャム人の離散の歴史—」久志本裕子・野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための64章』（明石書店、2023年）、173-177頁。

## その他

- 1 辞典項目「安息日」「エデンの園」「十戒」「昇天」「メシア」など計39項目、『岩波イスラーム辞典』大塚和夫他編、岩波書店、2002年。
- 2 学界動向「クルアーン学会の誕生 The Qur’an—Text, Translation and Interpretation 学会報告」『イスラム世界』58(2002): 111-115。
- 3 エッセイ「イスラームと『書くこと』、そして書物」『ほん』講談社、316(2002): 52-54。
- 4 書評「リチャード・ベル『コーラン入門』」『イスラム世界』62(2004): 88-91。
- 5 エッセイ「イスラームの根源にあるもの」『読書のいずみ』全国大学生生活共同組合連合会、99(2004): 26-28。
- 6 エッセイ「イスラーム教では犬のことをどう見ているか」『愛犬の友』誠文堂新光社、649(2005): 74-76。
- 7 対談「異文化理解」『天王寺「学びのもり」から』（新風書房、2006): 63-112。

- 8 辞典項目「人生論の名著を読む『コーラン』」『現代倫理学事典』(弘文堂、2006): 312-13。
- 9 書評「牧野信也『イスラームの根源をさぐる 現実世界のより深い理解のために』」『イスラーム世界』68(2007): 94-97。
- 10 辞典項目「ベル『コーラン』」『宗教学文献事典』(弘文堂、2007): 347。
- 11 エッセイ「母国を離れたイスラーム教徒たち」『さん・サン』明治学院大学保証人会、64(2008): 4-5。
- 12 研究メモ「ウズベキスタンのウスマーン写本—『世界最古』のクルアーン(コーラン)写本—」『国際学研究』37(2010): 87-93。
- 13 書評 *The Qur'ān: the Voice of Islam* by Yasushi Kosugi (Tokyo: Iwanami Shoten, 2009) [in Japanese], *Journal of Annals of Japan Association for Middle East Studies* 26(2010): 185-189。
- 14 研究メモ “Islam in Hawai'i: The House of an American Billionaire Woman and Muslim Immigrants,” *International & Regional Studies* 40(2011): 95-99。
- 15 監修「奇跡の啓典『クルアーン』を読み解く」『一個人』140(2012年1月):88-101。
- 16 エッセイ「都市のイスラーム的風景」『都市問題』(2012年2月号): 1。
- 17 対談(山内昌之・大川玲子)「日本人とイスラーム」、原武史編『歴史と現在 明治学院大学国際学部附属研究所公開セミナー(4)』(河出書房新社、2012): 173-191。
- 18 コラム「隣にあるイスラーム」、直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学3 正義とは』(岩波書店、2012): 103-106。
- 19 コラム「聖典と教祖」、直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学4 自由とは』(岩波書店、2012): 101-104。
- 20 講演報告「イスラームのメッカ巡礼 歴史認識と現在」『明治学院大学教養教育センター附属研究所年報 : synthesis』2012: 10-14。
- 21 辞典項目「世界宗教の聖典 イスラーム」『宗教の事典』(朝倉書店、2012): 569-574。
- 22 辞典項目「ウラマー」『世界宗教百科事典』丸善出版、2012年。
- 23 講演報告「『原理主義』を超えて、新しいイスラーム理解へ 日本人の認識の転換」『国際学研究』43(2013): 7-11。
- 24 講演報告 “Beyond ‘Fundamentalism’, Toward a New Understanding of Islam: A Shift in Japanese Awareness,” *International & Regional Studies* 43(2013): 12-19。
- 25 新聞記事 “Islamic Literature was Buried in the Pol Pot Regime,” *Reaksmei Kampuchea*, 2013. 10. 23 [In Cambodian].
- 26 研究報告 “Hidden Islamic Literature in Cambodia: The Cham in the Pol Pot Period,” *Searching for the Truth* (Special English Edition, Third Quarter, 2013): 20-22。
- 27 エッセイ「イスラームの聖典クルアーン」『書物学2』(勉誠出版、2014) :92-96 。
- 28 研究メモ「チャム人の失われた呪術書をめぐって<前編>—カンボジアのマイノリティ・ムスリムの現在—」『国際学研究』48(2015): 77-90。
- 29 研究メモ「チャム人の失われた呪術書をめぐって<後編>—カンボジアのマイノリティ・ムス

- リムの現在—」『国際学研究』 49(2016): 71-84.
- 30 エッセイ「神のもとで人びとは何を正義と考えるのだろうか 『クルアーン (コーラン)』」、直江清隆編『高校倫理の古典でまなぶ 哲学トレーニング 2 社会を考える』(岩波書店、2016) : 62-69.
- 31 研究メモ「ムスリムによる反テロ思想と英国における教育実践—ターヒル・カードリーのファトワー (法的判断) に基づいて—」『国際学研究』 50(2017): 163-180。  
([https://meigaku.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1320&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://meigaku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1320&item_no=1&page_id=13&block_id=21))
- 32 書評「後藤絵美著『神のためにまとうヴェール』」『宗教研究』 388/91 (2017) : 155-158。
- 33 「反テロ・平和思想を説く新しいイスラーム思想の潮流—ギュレンとカードリーを例に」『世界平和研究』 214(2017):27-34。
- 34 ラジオ放送“Sure 94 Verse 1-8 - Gute Zeiten, schlechte Zeiten, Deutschlandfunk 局 (ドイツ) , 2017年8月9日放送  
([http://www.deutschlandfunk.de/sure-94-verse-1-8-gute-zeiten-schlechte-zeiten.2395.de.html?dram:article\\_id=389189](http://www.deutschlandfunk.de/sure-94-verse-1-8-gute-zeiten-schlechte-zeiten.2395.de.html?dram:article_id=389189))
- 35 研究メモ「ビント・シャーティウ (アーイシャ・アブドッラフマーン) のクルアーン解釈 —カイロ大学と人文学—」『国際学研究』 53(2018):1-18。